

交通案内



京急線

「弘明寺駅」より

バス停「弘明寺口」乗車(徒歩7分)

- 「井 10」系統・「子ども医療センター」行き
- 「東 01」系統・「東戸塚駅東口」行き
- 「横 44」系統・「戸塚駅東口」行き
- 「戸 45」系統・「戸塚駅東口」行き



いずれもバス停「子ども医療センター」下車
できるだけ公共交通機関のご利用をお願いします。

イラスト協力:ヨシタケ シンスケさん



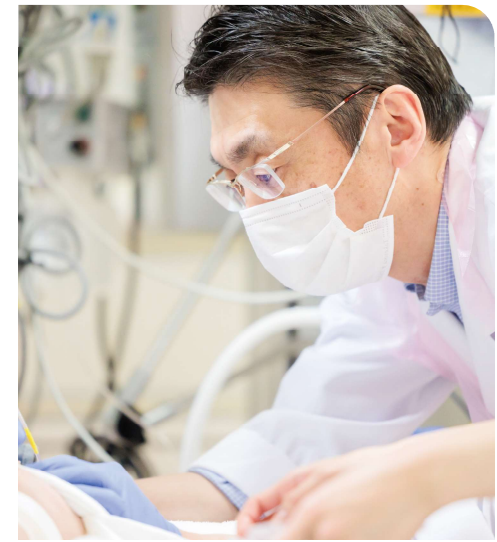
〒232-8555 横浜市南区六ツ川2-138-4
Tel.045-711-2351 (代)
Fax.045-721-3324

診療時間について

当センターの診療は
医療機関等からの紹介予約制になっています。

診療受付時間 8:30~15:00
休診日 土曜・日曜・祝日

子ども医療センター

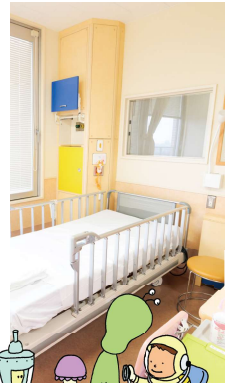


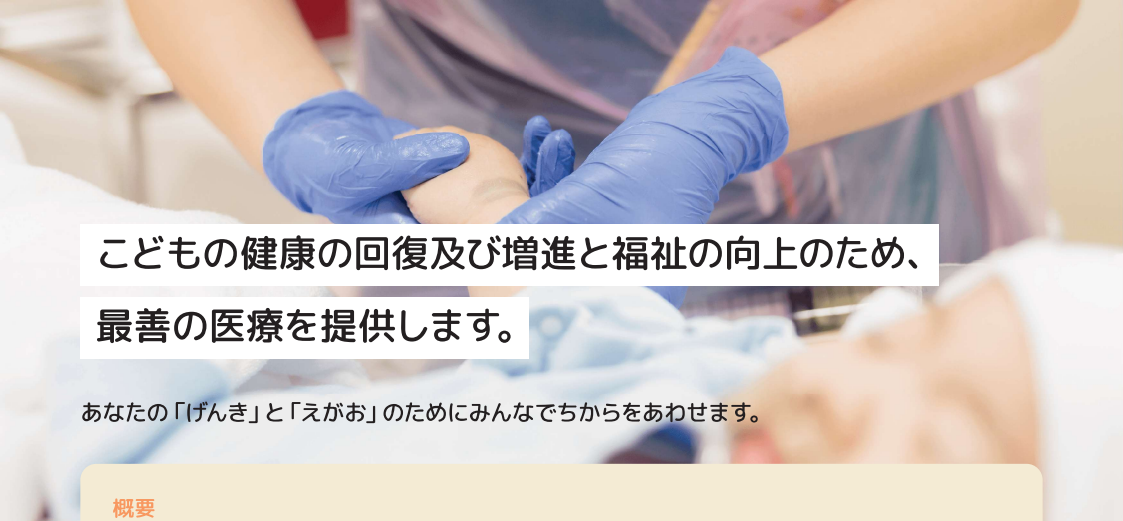
最善の医療で
子どもを元気と笑顔に



地方独立行政法人 神奈川県立病院機構
神奈川県立

子ども医療センター
Kanagawa Children's Medical Center





こどもの健康の回復及び増進と福祉の向上のため、 最善の医療を提供します。

あなたの「げんき」と「えがお」のためにみんなでちからをあわせませう。

概要

神奈川県立こども医療センターは、昭和45年に設立された小児専門病院です。

340床のこども専門病院と90床の障害児入所施設からなり、医療と福祉を一体として提供しています。

PICUやNICUなど14の病棟があり、神奈川県立横浜南支援学校も併設されています。

平成25年には「小児がん拠点病院」に指定されました。今後も最善の治療と臨床研究に力を入れていきます。

基本方針

1. 患者さんの命と安全を第一に考えます。
2. 患者さんとご家族とともに医療を行います。
3. 高度、先進的な医療を行うとともに、積極的に臨床研究に取り組みます。
4. こどもの発育、発達を考えた療養環境、教育環境を整えます。
5. 周産期・小児医療と保健・福祉に携わる人材育成に努めます。
6. 地域の関係機関と連携し、周産期・小児医療の充実、向上に貢献します。
7. 透明度の高い病院運営と情報公開に努めます。



病院のこども憲章

1. こどもたちに、安心して治療が受けられる環境を整えます。
2. ご家族が積極的に治療に参加できるよう配慮します。
3. こどもたちやそのご家族は、自らの健康に関する決定において十分説明を受けて治療に参加する権利を有し、不必要な医療処置や検査から守られます。
4. こどもたちは、身体的・精神的・社会的苦痛の緩和を求めることができます。
5. こどもたちや親たちは、年齢や理解度に応じた方法で説明が受けられます。
6. こどもたちは、こどもたちやご家族の身体的、情緒的、発達のニーズに応えられる訓練を受け、技術を身につけたスタッフによりケアされます。
7. こどもたちは、年齢や症状にあったあそびや教育が提供され、スタッフが配属された環境におかれます。
8. こどもたちやご家族のプライバシーはいつでも守られます。
9. こどもたちのケアの継続性に配慮します。

多職種連携で実現する、最善のチーム医療

神奈川県立こども医療センターは、県内唯一の小児専門総合病院として、小児の心疾患や先天性異常などの手術や難治性疾患等に対する高度・専門医療を皆様にご提供しています。

また、当センターは国内でも有数の2つの障害児入所施設を併設した小児専門総合病院として、レスパイトケア等を含めた医療的ケアの必要な患者を積極的に受け入れています。

当センターの特徴の一つにチーム医療があります。患者さん及びご家族は、病気と共に様々な問題を抱えながら受診されることが多く、病院側の対応には多面的なアプローチが必要になります。

一人の医師だけでは医療が成り立たなくなっているのが、現代の医療であり、いかに多職種の専門家が有機的に織りなす共同作業としてのチーム医療を構築していくかが問われています。当センターでは職種間協働を積極的に推進することにより、医療の質を高めて、効率的な医療サービスが提供できるように努めています。

さて、神奈川県立病院機構では、県立病院としての役割を果たし、安心・安全で質の高い医療の提供、経営基盤の強化・安定化に取り組んでいますが、当センターでは小児がん拠点病院や総合周産期母子医療センター、アレルギー疾患医療拠点病院としての役割を担うとともに、業務改善や効率的な経営により、県民の皆様が必要とされる医療を安定的に提供できるよう職員一同で取り組んでいます。

小児医療は未来に向かう医療です。こどもは未来を背負っています。豊かで健康な未来を願いつつ、医療と福祉の面から社会を支えたいと思います。今後も、こどもと家族に寄り添うこども病院を目指してまいります。



神奈川県立こども医療センター 総長 黒田 達夫

各部署のご案内

医療局

総合診療科/救急・集中治療科/血液・腫瘍科/内分泌代謝科/感染免疫科
腎臓内科/遺伝科/輸血科/アレルギー科/神経内科/循環器内科/外科/整形外科
リハビリテーション科/形成外科/脳神経外科/心臓血管外科/皮膚科/泌尿器科
眼科/耳鼻いんこう科/放射線科/歯科/麻酔科/病理診断科/児童思春期精神科
新生児科/内科(母性)/産婦人科

看護局

外来看護科、14の病棟看護科、中央手術室看護科、2つの福祉施設看護科と看護教育科があり、日々の看護と看護師の育成にあたります。

医療安全推進部

医療安全に関するルールを整え、情報収集や情報発信を行い、組織横断的に医療の安全を推進します。

感染制御室

院内感染防止と近隣(市中)で流行している感染症の院内拡大防止を目的に感染対策を推進しています。

緩和ケア普及室

患者さんとご家族の身体的・精神的・社会的苦痛を軽減するための支援活動や地域の医療機関等への普及・支援を推進します。

小児がんセンター

多職種が連携して、診療、臨床研究、相談などに取り組むとともに、地域全体の小児がん診療の質の向上に努めます。

事務局

総務課/経営企画課/医事・診療情報管理課



医療技術・発達支援局

放射線技術科/検査科/薬剤科/栄養管理科/臨床工学科/臨床心理科
言語聴覚科/理学療法科/作業療法科



地域連携・家族支援局

地域医療連携室/母子保健推進室/医療福祉相談室/退院・在宅医療支援室
受診するお子さんご家族の療養生活に関する相談を受けています。
保健医療福祉関連情報の収集や提供に努め、地域医療機関と連携し、在宅医療を支援します。

患者家族医療対話推進室

医療安全推進室と協働し医療の場で患者さんやご家族と医療者が円滑に対話ができるよう、多職種でサポートを行います。職員同士で意見交換の場を提供するなど医療サービスの質向上に取り組みます。

重症心身障害児施設「ひだまり」

重度の知的障害と肢体不自由を合わせ持つお子さんが入所し、医療を受けながら生活を過ごしています。

肢体不自由児施設「つばさの木」

四肢や体幹変形、機能障害を持つお子さんが入所し、手術やリハビリテーションを行うことによって機能の回復と自立を目指す施設です。

臨床研究所

臨床研究室/治験管理室/図書室
臨床研究室では、各種の研究のほか、研究活動の総合的な調整や支援を行っています。治験管理室では小児治験を推進しています。
図書室では、職員の研究・研鑽のための情報を提供するとともに、患者さんとご家族のための外来図書室を運営しています。

こども医療センターでは、医療機関や保健所等からの「紹介予約制」で、産婦人科・内科(母性)を除き原則15歳以下の患者さんを対象に診療を行っています。

小児がんセンター

当センターは、平成25年2月に厚生労働大臣より「小児がん拠点病院」に指定されるとともに、平成27年4月には横浜市の「小児がん連携病院」に指定されました。こうした指定を受け、平成27年6月には、組織横断的な院内推進組織として「小児がんセンター」を設置し、令和6年4月からは、正式に病院内のひとつの部署として位置づけられました。「小児がんセンター」では、関連する職種が連携して診療、臨床研究、相談などに取り組むとともに、地域全体の小児がん診療の質の向上に努めます。



メディカルゲノムセンター

メディカルゲノムセンター(MGC)は、神奈川県におけるゲノム医療の中核施設としての体制整備、未診断疾患イニシアチブ(IRUD)のクリニカルセンター(拠点病院)、ゲノム医療にかかわる人材の育成、小児希少難病研究支援等を目的に平成27年11月に設置しました。ゲノム情報をどのように診療に役立てるか、バイオインフォマティクス専門家も含めた多職種からなるチームMGCが課題に取り組みます。



遺伝カウンセリングセンター

「遺伝カウンセリングセンター」は、先天的な病気、遺伝子が関係する病気のあるお子さん・ご家族のために、専門医と認定遺伝カウンセラーによるカウンセリングを提供する部門です。現在こども医療センターを受診中の方も、受診中ではない方も、どなたでも相談することができます。医師の紹介状は原則として不要です。



胎児診療センター

胎児診療センターは、「Fetus as a patient(胎児をひとりの患者として診る)」の信念のもと、産婦人科、新生児科、循環器内科、外科をはじめと多くの医師や医療スタッフが連携して、胎児診断から、胎児治療、出生前の両親への情報提供、妊娠・分娩管理を行っています。



成人移行期支援センター

小児期に発症した慢性疾患や障害を抱えたこどもたちが、大人になっていく中でさまざまな課題に立ち向かう必要性があります。成人移行期支援センターは、関係する職種で支援について話し合いを重ね、患者さんと一緒に考えていきます。



神奈川県立横浜南支援学校

当センターには、神奈川県立横浜南支援学校が併設されています。こどもの病状や体調、障害の状態、学習進度に合わせた学年別による教室の授業、病棟を訪問してのベッドサイド授業、重症心身障害児施設での学部別による授業など、多様な指導体制を工夫しながら、一人ひとりの教育ニーズに応じた教育活動が行われています。

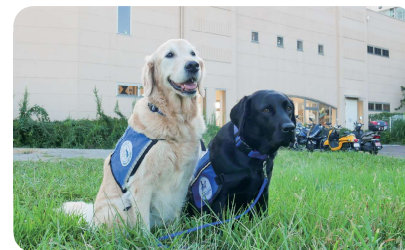


当センターの取り組み等



ボランティア活動

当センターのボランティア活動は、「オレンジクラブ」と総称します。現在、約300人のボランティアが、外来、病棟、きょうだいのお預かり、お話し会、園芸、作業、縫製、手作りの会などに所属し、活動しています。



各種セミナー等の開催

当センターは、こどもの専門医療施設として、多くの小児難病の治療や生活指導に携わっています。こうしたことから、平成14年度より、当センター職員を講師とする「こどもの健康セミナー」等を開催し、毎回、わかりやすくニーズの多いテーマを取り上げ、多くの県民の方々に参加いただいています。



ファミリードッグ

当センターには、こどもたちの検査に付き添ったり、歩行訓練を手伝うなど、治療に関わる活動を補助するファミリードッグが常勤で勤務しています。看護師として臨床経験のあるハンドラーとともに活動を行うことにより、当センターで治療を続けるこどもたちのストレスや不安を解消し、治療への勇気を持ってもらうとともに、患者さんのきょうだいやご家族にも癒しと楽しさを与えています。

ピアサポーター

病気や障害のある子どもを育てた経験のある保護者による相談業務を行っています。

開催日：火曜日～木曜日 10時～14時 ※予約不要
場所：本館1階患者図書室



患者・家族滞在施設「リラのいえ」

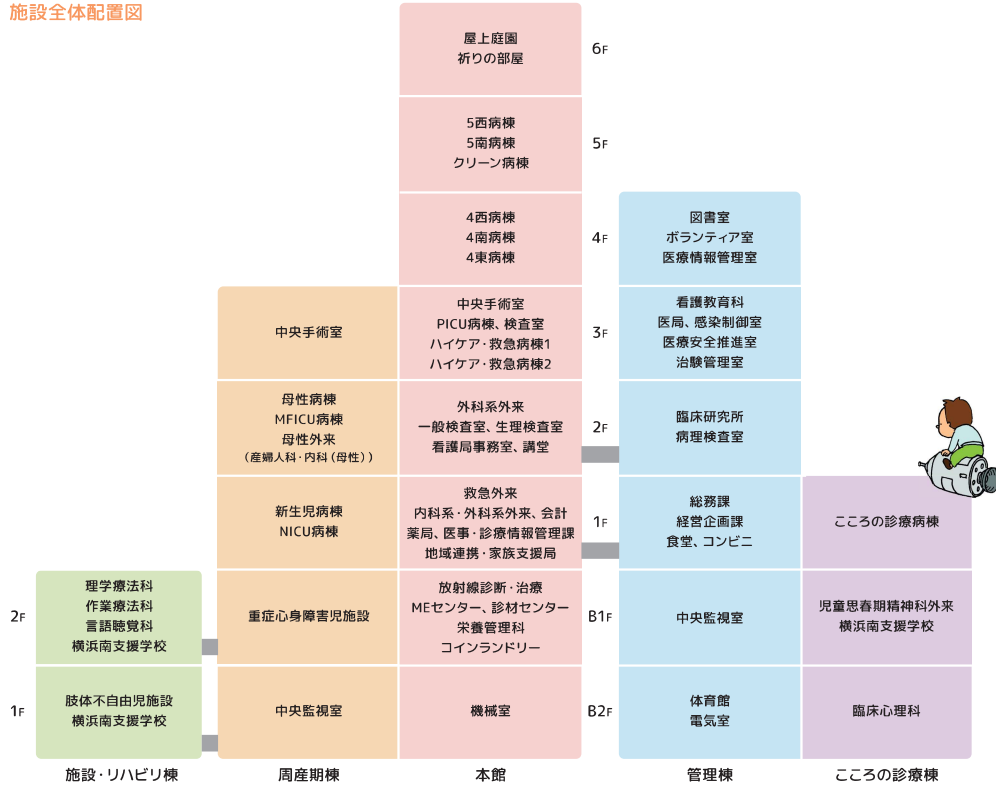
「リラのいえ」は、患者さんとご家族のための宿泊滞在施設です。経済的な負担を減らし、精神的な支えとなることを願い、認定NPO法人スマイルオブキッズが当センターと協力して管理・運営しています。きょうだい見回り保育も行っています。

住所：〒232-0066 横浜市南区六ツ川 4-1124-2
TEL：045-824-6014



病棟構成

施設全体配置図



病棟	病床数	内容
本館	5階 西病棟	30床 幼児/学童/思春期内科系
	5階 南病棟	30床 乳幼児内科系
	5階 クリーン病棟	15床 血液・腫瘍科/造血細胞移植
	4階 西病棟	30床 循環器系/外科系
	4階 南病棟	30床 外科系
	4階 東病棟	30床 外科系
	3階 PICU病棟	10床 PICU
	3階 ハイケア・救急病棟1	14床 ハイケア(救急患者、PICU退室後患者など)
	3階 ハイケア・救急病棟2	30床 ハイケア(救急患者、PICU退室後患者など) 循環器系
こころの診療病棟	40床	児童思春期精神科
周産期棟	2階 母性病棟・MFICU病棟	30床 母性(24床):一般の妊産婦 MFICU(6床):妊産婦の集中治療
	1階 新生児病棟・NICU病棟	51床 新生児(24床):急性期治療後の新生児 NICU(27床):ハイリスク疾患、急性期治療
病院合計	340床	
障害児 入所施設	施設・リハビリ棟 1階	90床 肢体不自由児施設「つばさの木」(50床) 重症心身障害児施設「ひだまり」(40床)
	周産期棟 B1階	
センター合計	430床	

院内設備



食堂 (管理棟1階)

平日
7:30 ~ 18:00



コンビニエンスストア (管理棟1階)

営業時間
8:00 ~ 21:00



コーヒーショップ (本館1階)

平日
7:30 ~ 19:00
土日祝
10:00 ~ 17:00

アメニティ

本館には、少しでも温かく、うるおいのある療育環境をめざし、多くの方々の協力により、たくさんのアートワークが展開されています。病棟学習室・プレイルーム、外来プレイコーナーには、学習教材、遊具、家具などが寄附により整備されています。

- 授乳コーナー・通路のステンドグラス
- 祈りの部屋のレリーフ、ステンドグラス
- 病棟、外来通路のアート
- 外来待合のオリジナルデザインのベンチ
- 外来図書室
- 屋上庭園
- 壁面・吹き抜けの動物ピース、モビール など

